

第8回スペクトル管理 SWG 議事録

1. 日時: 2004年3月4日 10時~18時
2. 場所: TTC事務局4F DE会議室
3. 出席者:
 - 3-1. 出席会員数/全会員数 38/ 62 (出席数には議長委任状19 を含む)
 - 3-2. 出席委員数/全委員数 54/ 90 (出席数には議長委任状21 を含む)以上により会議成立
SWGリーダー: 池田、サブリーダー: 林、松本、吉井
4. 会議資料: 寄書リスト
5. 議事要約
 - 5-1. 第7回議事録[SMS-08-01]及びスペクトル適合性確認結果報告書[SMS-08-02]
承認された。
 - 5-2. 議事録担当 アッカネットワークス
 - 5-3. 課題表の確認[SMS-08-03]
承認された。
 - 5-4. 上り拡張を用いた各種オーバーラップ方式のスペクトル適合性クロスチェック結果
[SMS-08-04]
NEC, SEI, CTのクロスチェック結果は規定の誤差範囲内で、一致した。
GSVの結果とは一致しないが、2社以上の結果が一致しているので承認された。
 - 5-5. G. BOOST (Narrow)方式のスペクトル適合性クロスチェック結果[SMS-08-05]
前回提示されたGSVの結果と一致しており、承認された。
方式名は、IPR/商標の問題に関して理事会からの指示がまだないため、従来の方法にしたがい、
GSVの提案によりG. BOOST (Narrow)とする。
 - 5-6. カッドスペクトラルオーバーラップとG. 992.5アップストリームのスペクトル適合性クロスチェック結果
[SMS-08-06]
前回提示されたGSVの結果と一致しており、承認された。
 - 5-7. 新システムの適合性確認のための手引き[SMS-08-07]
松本サブリーダーから説明があり、下記の点を修正した。
 - 2項(2)(d)
6週間以内に、ボランティア企業が見つからない場合、あるいは(下線部分を削除)ボランティア企業から計算結果の提出がない場合は、新システム提案企業の計算が正しいものとみなす。

- 3項

= 限界線路長以下で32 kbps以下(下線部分を追加)の不一致箇所あり(適合性判断に影響なし)

- 3 会員以上による計算照合の場合は、2 会員の独立した計算結果が一致すればよい。

議長から、クロスチェックの方法に関してTTCでソフトウェアを用意し、会員が利用できるようにすることが提案され、下記のことが確認された。

- TTCで予算措置を検討する。
- アドホックグループで仕様検討と見積もりなどを行い、4月15日のSWG会合で第1次案を報告する。

SEI(コンビーナ)、NEC、NTT東、ブロードコム、GSV、CT

なお、長野県協同電算から開発されたシステムのソースコードの開示要望あった。

5-8. 第7回スペクトル管理SWGの付託による事業者間会合結果[SMS-08-08]

吉井事業者間会合議長から報告があった。結果についての質問はなかった。

5-9. 「DSLスペクトル管理の基本的要件」(情報通信審議会答申)[SMS-08-09]

総務省電気通信技術システム課から説明があった。

また、関連してSBBから[SMS-08-19]の説明があった。

これらの説明に対して、長野電算から

- ISDNを干渉源として認めることになっていたのか
- 上り拡張システムも扱えるか

等の質問があったが、いずれも含まれるとの見解であった。

5-10. TTCスペクトル管理SWGでの検討の在り方について[SMS-08-10]

イーアクセスからの意見表明に対して、提案の「別の枠組み」について質問があったが、具体的な案はないとのことである。

議長が、「基本的には昨年6月のDSL専門委員会で決められた枠組みの中で扱う」と意見集約した。

5-11. B章に関わる技術的情報の共有を目的とするアドホックグループの設置について[SMS-08-11]

NTTからの提案に対して、以下を確認のうえ承認された。

- A章は扱わない。
- 会議室はTTC。コンビーナはNTT。
- 参加希望者はNTT藤川氏、山野氏まで連絡する。

5-12. NEXT & FEXT Models for JJ-100.01 Version 3[SMS-08-12]

GSVからの疑問に対して、NTTから数値は実測データであり、外挿ではないとの説明があった。

また、根拠となる論文はJJ-100.01のG章の文献に記載されているが、本論文のPDFファイルがNTTから提供されSWGのFTPサイト(会員寄書)に掲載された。

5-13. JJ100.01(第3版)に対する提案[SMS-08-13]

アッカネットワークスからの説明に対して、下記のコメントがあった。

- 損失の表し方で0.4mmポリエチレン絶縁ケーブル芯線とケーブルを限定する必要はない
- サブキャリア当りのビット数を15ビットに変更することは検討する必要がある。

NTTから、2.7km 超などでのISDNのカッド内収容に関する運用情報を SWG に提出する。

5-14. JJ100.01第三版を制定する前に本寄書の各項について議論することを提案する[SMS-08-14]

寄書の1)項で、「第3版はISDNをAクラス回線としない。」と訂正があった。

5-15. JJ100.01改定における検討課題[SMS-08-15]

議長が具体的な提案を待って検討すると意見集約した。

5-16. 上り拡張方式の今後の検討について[SMS-08-16]

SBBから「JJ100.01第3版の作業が時間切れになった場合に、第2版に戻って上り拡張方式を導入することには反対」との意見表明があったが、議長が、「本件は別途、今後のSWGの審議のなかで扱う」と意見集約した。

5-17. 上り拡張方式の今後の検討について[SMS-08-17]

SBBから寄書の説明があり、質疑応答があった。

5-18. 上り拡張方式の今後の検討について[SMS-08-18]

GSVから寄書の説明があり、質疑応答があった。

6. JJ-100.01の第3版改版に向けた検討課題

下記のように検討課題が整理され、次回までの各メンバーは各社の意見を提示することとなった。

ア) 基本方針

(1)サービススペックに関する事項を課題とするか

(2)上り拡張方式のほかに、長延化方式、1.1MHz を超える周波数を使う方式、リモートターミナルでのDSL方式を扱うか、検討する順番

(3)保護システム(クラス分け)の見直し

(4)総量規制、収容制限のみに限定すべき等の考え方

イ) 保護判定基準の見直し

(1)ISDNを適合性確認の干渉源から排除したい

(2)距離3.5km(0.4mmPE絶縁)で4Mbps(下り)、400Kbps(上り)を確保したい

(3)緩和値(マージン)の設定

(4)保護マスクの導入の是非

(5)第2版通りの運用をすべき、見直しする合理的な理由がないとの意見がある。

ウ) 線路モデル、干渉源、計算方法の変更

(1)線路長(損失)の定義および各式の整合性 B章を検討するアドホック会合で議論

(2)干渉源の数

(3)2.7km超線路長でのISDNの扱い

(4)長延化方式用モデルおよび適用距離

(5)漏話の周波数特性が正しくない B章を検討するアドホック会合で議論

(6)キャリアビット数[8、15、その他]

(7)第2版通りのモデルで十分、モデル変更する合理的な理由がないとの意見がある。

7. 次回以降の会議予定

第 9回 :3月26日(金) 14:00 ~ 18:00

第 10回 :4月15日(木) 10:00 ~

第 n回 :6月10日(木)

以上